

參考資料



高齢化・認知症高齢者数の推計

国の推計によると、高齢化に伴い、認知症患者数も増加することが見込まれています。

	2024年	2040年
高齢化率 (福井県)	31.2%	37.6%
認知症高齢者数 (全国)	471万人 (2025年推計)	584万人 6.7人に1人

若年性認知症（65歳未満で認知症を発症）

65歳未満で認知症を発症した場合「若年性認知症」と呼ばれ、高齢者の認知症と疾患自体は同じですが、現役世代ならではの悩み（就労継続、経済的な問題、子育て、親の介護等）があります。

若年性認知症の診断を受けても、適切な治療を受けて症状の進行を遅らせたり、周囲の理解を得て仕事を継続することも可能です。そのためには早期受診・早期相談が大切です。

県では、平成28年度より「福井県若年性認知症相談窓口」と若年性認知症支援コーディネーターを **公益財団法人 松原病院内** に設置し、相談等の支援をおこなっています。

（参考：[ホーム - 福井県若年性認知症相談窓口](#)）



認知症サポーター養成講座

認知症サポーターとは、何か特別なことをする人ではなく、認知症について正しく理解し、見を持たず、認知症の人や家族をあたたかく見守る「応援者」のこと。90分の講座を受講すると、誰でもサポーターになることができます。

2005年～現在に至るまで、県内の小中学校、地域住民、企業などにおいて、**累計17万人**
あまりのサポーターを養成しています。

- 参考：[認知症サポーターキャラバンとは](#)

認知症サポーター・キャラバンの マスコット「ロバ隊長」

認知症サポーターの「キャラバン」（隊商）の隊長として、「認知症になっても安心して暮らせる町づくり」への道のりの先頭を歩いています。ロバのように急がず、しかし一步一步着実に、キャラバンも進んでいきます。



(写真)

アル・プラザベルでの認知症サポーター養成講座の様子

認知症フレンドリープログラム

県では、認知症の方が外出時に適切なサポートを受けられるように、認知症の方への接し方や店舗づくりについてまとめたガイドライン「認知症フレンドリープログラム」を作成しました。

実際に認知症のご本人、ご家族、支援者（専門職）、企業のみなさまからの声を集め、経験した方が多い事例を取り上げたほか、県内企業の取組や店舗づくりの例も掲載しています。

（観光業編より抜粋）

こんな場面ありませんか？

浴場や宴会場で他のお客様の衣服や履物を着用したので声をかけたところ、「これは自分のものだ！」と言われました。確認をしたところ本人のものは別のところにありました。



ご自身のロッカーがわからないようだったのでお話ししながら一緒に探すと、安心した様子でした。



POINT

衣服に名前が書いてある場合もあるので、本人と一緒に確認しましょう。
ロッカーの場所や使い方がわからない様子の際は、ゆっくりとお話をして、対応してください。



- 本人の状況 -

自分の着てきた服を覚えていない、または自分のものを置いた場所を忘れてしまっている、自分が間違えていると認識していない状況です。

- 対応方法 -

間違っていると否定しても非難されたと怒り出す場合もあるので、「お客様のお洋服はこちらではないですか」とやんわりお伝えしましょう。

- アドバイス -

ロッカーの前などで迷っている様子ならゆっくりとお話をして、一緒に探しましょう。このような状況が何度も繰り返される場合、ご家族や地域包括支援センターに連絡し、相談しましょう。



▽データはこちら(県HP)、冊子の配布も行っています。

- [・ 認知症フレンドリープログラム（小売業編）.pdf](#)
- [・ 認知症フレンドリープログラム（金融機関編）.pdf](#)
- [・ 認知症フレンドリープログラム（公共交通機関編）.pdf](#)
- [・ 認知症フレンドリープログラム（観光業編）.pdf](#)

世界アルツハイマーデー（認知症の日）

1994年に国際アルツハイマー病協会は、WHOと共同で毎年9月21日を「世界アルツハイマーデー」と制定しており、わが国でも、2024年に施行された「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」において、国民の間に広く認知症についての関心と理解を深めるため、**9月21日を「認知症の日」、9月を「認知症月間」と**しています。

福井県では、認知症のシンボルカラーにちなんで「**オレンジハート運動**」と名付け、講演会、啓発パネル展、オレンジライトアップ等を実施しています。



（左から）オレンジハート運動CM、オレンジライトアップ（福井駅西口恐竜）、啓発パネル展（県立図書館）

国や自治体において、「認知症の方の社会参加」を促進する動き

地域とのつながること、ハタラクことが「生きがい」になる。



やっぱり、人の役に立てるのは嬉しいね。

丹南きらめきに通い出し、メンバーと一緒に様々な「ハタラク活動」に参加し、地域の方々から「ありがとう」と感謝の言葉をもらう中、段々と元気を取り戻される方もたくさんいらっしゃいます。

「ここ（BLG）のために何かするのは『生きがい』を感じる。」とか、ご家族からは「食べ物を選んだり、ミシンをしたり、そういうことができてデイサービスの時より楽しいと言っている。」と喜びの声をいただいています。



近隣の福井トヨタサンドーム南店で車を磨く様子。「わたしの仕事よ
♪」

認知症になっても、地域社会とつながり、**社会の一員として**役割をもって生きられるような取り組み（ハタラク活動、社会参加促進）が全国各地で推進されています。

【社会参加の例】

- ・ 自動車販売店で洗車のしごとをする
- ・ 近隣の農家の農産物の収穫を行う
- ・ 宅配やポスティングのお手伝い

（記事出典）[福井初の“ハタラク”デイサービス 認知症があっても、地域の一員として生きがいを。福井の「ハタラク」デイサービス。（あなたの街の「生協の介護・福祉」） | 生協みんなの介護・くらしラボ](#)

オレンジイノベーションプロジェクト

経済産業省では、「オレンジイノベーション・プロジェクト～認知症当事者をつくる、誰もが生きやすい社会～」にて、共生社会実現に資する質の高いソリューションが創出される仕組みの構築を目指しています。

また、認知症当事者のニーズにフィットした製品・サービスを拡充すべく、ユーザーである本人に参画してもらう「**当事者参画型開発**」の普及に取り組んでいます。



- ・（出典）特設ホームページ <https://www.dementia-pr.com/>
- ・ オレンジイノベーション・プロジェクト紹介動画 - YouTube

当事者参画型開発の取組み

